佳作

経験を糧に

青森県むつ市立川内中学校
３年　杉本　宇海

「ゲームセット」

審判の声がテニスコートに、いや、私の頭の中でぐるぐるまわっていた。この瞬間、私の目標であった県大会出場は消えてしまった。そのあと、次の試合の審判をどのようにしたか覚えていないほどの衝撃だった。今までの実績からして、県大会出場は手の届くところにあったはず。それなのに、３年間のしめくくり、部長として頑張ってきたこの１年間のしめくくりが……と思うと、涙が止まらなかった。誰の声も耳に入らなかった。全てが無駄であったと感じていた。

私は中学校の部活動をソフトテニス部と決めていた。同じ学年で入部したのは私一人。担任の先生は一人であることの大変さを教えてくれ、それでも入部するという私を「本当に一人で大丈夫？」と最後まで心配していた。頭では理解していた。

負けず嫌いの私は、とにかく先輩方に追いつこうとがむしゃらに頑張った。先輩方もたくさん私に教えてくれた。毎日が楽しかった。

一人のつらさを知ったのは試合に出場してからだ。頭では分かっていたが、ペアのいない私は、先輩と組んで試合に出場し、オープン参加なので、勝っても次に駒を進められない。勝っても負けという悔しさを味わった。他の学校の１年生は勝ったらどんどん上に進める。私だけは進めない。大きな差を感じた。でもこれは最初から分かっていたことだから、と、何度も自分に言いきかせた。

先輩が引退し部長になった。入学したときから、自分は部長だと分かっていたので、先輩から教わったとおりにやろうと頑張った。

しかし、大きな壁があった。私は声を出して元気にやって、めりはりのある部活動を経験してきた。コロナの影響で、声は出せず応援もできず、でも、めりはりをつけたい。日々悩んだ。後輩が活躍できないのは自分のせいだと思っていた。自分を責めた。「相談できる仲間がいないとは、こういうことか。」と実感した。学級でも同じ立場の部長仲間は理解してくれる。しかし、部活動では、自分でその場を乗り越えないといけない。何かに押しつぶされそうになっていたが、それを言葉にできず、いつも部活動が終わると泣いていた。テニスは大好きだけれど、部活動はつらくなってきた。

家でも知らずに表情が暗くなっていたと思う。そんなある日、母が「経験と

努力が自己実現の最良の糧だよ。」と話してくれた。そのときは意味を理解していなかった。励ましの言葉だと思った。

部活動を引退し、この言葉の意味を実感した。３年間打ち込んできた大好きなテニスにかけた時間を「無駄だ」と思ってしまった私。でも、決して無駄ではなかった。私は、一人であったからこそ、人一倍努力した。一人であったからこそ、周りからよいところを学ぼうとした。一人であったからこそ、自分で考えて、悩んだ。そして、一人であったからこそ、後輩、先生、そして家族にいつも支えられていた。こんな素晴らしい日々を、なぜ無駄だと思ってしまったのか。

テニス部に入部。というたった一つの経験が、私に多くのことを教えてくれた。悔しい思いをした今だから分かったこともある。私のために、私を県大会につれて行こうと、テニス経験の浅い後輩は、団体戦で最後まで粘って頑張ってくれた。先生は、練習の中で、私の弱点をなくそうと支えてくれた。そして父や母は、いつでも私を一番に応援してくれた。学級の仲間は、話をたくさん聞いてくれた。私は多くの人に支えられていた。

中学校最後の中体連での失望は、今までの私を見つめ直す一つの機会になった。きっとこのことが今後の人生の糧になっていくだろう。

経験、努力、全て実るのなら最高だが、そうならないときもある。しかし、全てが自分の力になる。

「経験と努力が自己実現の最良の糧」

これから先も多くの場面でこの言葉と向き合い、失敗を恐れず挑戦していこうと思う。